

群馬県新里村

(現桐生市)

*

家族の応援助けられ

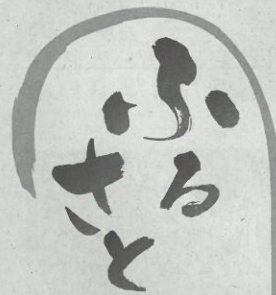
よかった」「誇りに思う」と応援の電話やメールをくれたことで、仕事を通じて恩返ししようと考えてことができました。

昨年からアフガニスタンの支

紛争やテロによる争いを防ぎ、人々が共存できる社会を目指す活動に取り組んでいます。ふるさとの新里村は、一言で言えば「自然豊かな田舎」。小学校は熊が出るような山奥にあり、通学には片道1時間かかりました。先生が「今日は猟師さんが熊を追っているので、気を付けて帰りましょう」と話すのを聞いて、「どうやって気をつければいいんだろう」なんて考えていました。

私は3人きょうだいの真ん中で、姉は学級委員を任

されるような優等生、弟も人気者でした。私は人と壁を作りがちで、中学のソフトボール部でも補欠すれすれ。家族や友達と比べてはコンプレックスを抱いていました。周りの人と同じことをしても勝てないと考え、人と違うことをやりたいという気



NPO法人

「REALs」理事長

瀬谷ルミ子さん 44



【思い出の1枚】 祖父母宅で

群馬県の母方の祖父母宅での一枚です。幼い頃は両親の仕事の都合で、週末はよく祖父母の家で過ごしていました。猫を抱えているのが小学生の私。隣はいとこで左が姉、手前でおどけているのが弟です。



畑に囲まれた自然豊かな場所で、木の実を使って壁に落書きしたり、おままごとで鍋に入れた泥をスプーンに見立てて遊んだりしていましたね。

帰省すると、実家で暮らす姉や弟がいつも温かく迎えてくれます。いとこを含めた親戚や近所の人たちも、両親とともに私を受け入れてくれるかけがえのない存在です。

持ちがありました。

今の仕事を指すきっかけは、高校3年の時にルワンダ内戦下の親子の写真を新聞で見え、衝撃を受け、解決策を知りたいと思ったことです。当時は紛争地のことを学べる大学が見つからず、専門家になれば、取り柄がない自分でも必要としてもらえると考えました。

東京の私大に進学したいと思

いましたが、家計は苦しい状況でした。母親は仕事をいくつも掛け持ちしていたので受験をためらっていたのですが、「そんなお金は何とかするから」と学費も工面してくれました。イギリスの大学院で学んだ時も、母がこつこつとためた貯金を充ててくれました。

両親はいつも私を応援してくれました。弟が小学生の時に脳

内出血で倒れ、今も障害が残っているのですが、特に母は常に前向きで明るくて。私の「やらない言い訳をしない」というポリシーは、母の存在が影響していると思います。

家族より先に、紛争地の人を助けに行くことへの罪悪感を持ったこともありました。それでも、私の仕事ぶりを知った家族が「やりたいことができている

援を続けていますが、自分を受け入れてくれる家族や環境、帰る場所があることは安心できます。NPOを支援してくれる群馬の方々も心強いです。講演に招かれる回数も群馬が一番多く、4月には母校に呼ばれています。若い人たちには、選択肢にふたをせず、人生を切り開いてほしいと伝えたいと思います。

(聞き手・瀬谷雄一)